養父市立宿南小学校　　令和4年度　学　校　評　価　　（学校自己評価･学校関係者評価）

2023/2/21

1　本年度の学校目標

学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青渓っ子の育成」

○めざす学校像　「学ぶことが楽しい学校」「教育環境が整備され、活気ある学校」「安全・安心で保護者や地域と連携し、信頼される学校」

○めざす児童像　「よく学び、よく遊ぶ子」「ふるさとを愛する子」「コミュニケーション能力の高い子」
「規則正しい生活習慣の身についた子」「思いやりのある子」「チャレンジする子」

○めざす教師像　「一人一人の児童の良さや可能性を伸ばす教師」「児童・保護者・地域に思いに寄り添える教師」
「使命感や情熱をもって、自らの実践的指導力を向上させ、互いに切磋琢磨する教師」

2　学校自己評価結果　（A　優れている　　B　良い　　C　おおむね良好　　D　要改善）

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校全体	学校の教育方針や情報などを保護者や地域にわかりやすく伝えているか	A	《取組状況》 ・月２回の学校だよりを全戸配付したり、一新したホームページで児童の活動を頻繁に紹介したりすることで、教育活動の様子や学校の願いを地域に発信している。また、学級通信、保健だより、食育だよりなどで、子どもの様子をこまめに伝えている。 ・子どもの声で、草庵先生の教えや今月の生活目標を告知放送し、保護者と地域にも広く啓発している。 ・多様な活動ができるよう教室環境や学習環境を整えている。休み時間に体育館で遊ぶ姿をよく見かけるようになった。 ・「○○週間」「○○チャレンジカード」等、挑戦する機会を積極的につくったことで、チャレンジし達成する喜びを経験する児童が増えた。 ・「宿南っ子がんばりタイム」や休み時間・放課後の個別指導を丁寧に行っており、基礎基本の定着・学習習慣づくりに取り組むことができた。 ・毎学期の生活アンケートや毎月のいじめ防止アンケート、日記指導や普段の児童観察、学童クラブとの連携等、積極的に児童の実態把握に努め、いじめの早期発見・早期対応を行っている。 ・ペーパレス会議が定着し、会議の終了が勤務時間を超えることはあまり無い。データや備品の管理のルール化が定着し、子どもと向き合う時間がしっかりと確保されてきた。 ・生活目標に対して、代表委員会で振り返り、具体的な改善策を児童が主体的に考え取り組んでいる。 ・教師全員が全児童の担任であるという意識で児童にかかわることで、児童を多面的に理解したり児童の様子を共有したりすることができた。 ・感染症対策のため手洗い・消毒・マスクの着用等、感染状況を見ながら適宜児童への指導を行った。また、授業参観やオープンスクールなどの学校行事を行う際は、保護者にも感染予防の協力を依頼し徹底した。 ・感染症予防のため、定期的に学級指導を行ったり委員会が予防の啓発を呼びかけたりし、継続して注意喚起することができた。 《改善の方策》 ・定時退勤日を、水曜日の他に、月初めの月曜日に設定している。今後も、業務の均等化とスリム化を図りたい。 ・今後も積極的にいじめにつながる事案をつかみ、学校全体で共有し、組織でていねいに対応していく。
	めざす学校：教育環境整備、活気、安全・安心、保護者・地域との連携	A	
	めざす児童：自立、チャレンジ、共生、健康	B	
	めざす教師：信頼感＝人間性・専門性・実践的指導力、使命感・情熱	A	
	児童の人権を尊重するとともに、いじめの防止・体罰防止に努めたか	B	
	新型コロナウイルス感染症対策は適切であったか。	A	
	勤務の適性化に全職員で取り組み、子どもと向き合う時間を確保しているか	B	
授業の様子	児童は、自ら学び自ら考える力は育っているか	B	《取組状況》 ・自主学習発表会を持ち、学びの見える化を図ったことで、さらに意欲的に取り組む児童が増えた。 ・児童の提出物や宿題から、個々の課題を掴み、個別指導を丁寧に行った。また、地域ボランティアによる「がんばりタイム」を活用し、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。 ・少人数の良さを生かし、様々な体験活動を取り入れたり試行錯誤する時間を確保したりすることで、基礎基本の定着を図ることができた。 ・機会を捉えて、自分の言葉で発表したりスピーチをしたりすること大切にした取組を行った。 ・３・４年生の算数科のガイド学習を１・２年生に取り入れたり、他教科に取り入れたりして、児童が主体的に授業に取り組む方法を探った。 ・アカデミアJr、英語の歌等の活動を継続して取り入れることで、自然に英語に慣れ親しみ、英語力が確実に身についている。 《改善の方策》 ・子ども同士の学び合いが深まるよう、授業形態の工夫や話し合い活動の活発化を図る。 ・デジタル教科書やデジタル教材の有効な活用方法を探求し、指導内容・指導方法の改善に努める。
	教師は、指導方法・指導内容の工夫・改善に努めているか	A	
	教師は、基礎基本の定着と個に応じた学習指導を行っているか	A	
社会性・人間性の育成	児童は、集団生活に必要なきまりや約束を守っているか	※B	《取組状況》 ・草庵先生の教えを月目標にし、生活を振り返るとともに、地区の告知放送でも呼びかけ保護者や地域の方にも取組を伝えるようにした。 ・コロナ禍の中であったが、自治協議会の活動やPTA活動もいろいろな工夫をされながらできるだけ事業を中止しないよう取り組まれ、児童も積極的に参加する様子が見られた。 ・生活アンケートの検証や子どもを語る会の実施、家庭との連携などにより児童理解に努めた。 ・そうあんくんの日の取組では、「そうあんくんカード」を活用し、テレビやゲームの時間を手伝いや読書・自主学習に使うよう意識づけを図った。 ・「そうあんくんの日」の取組を活性化させるため、児童の取組の様子を学校だより で紹介した。 《改善の方策》 ・子どもの実態把握を継続的・計画的に実施し、児童理解を深め、一人一人の子どもに寄り添った指導に努めていく。 ・できるだけ児童の思いや考えを聞き出し、気持ちに寄り添った生活指導を今後も心がけていく必要がある。
	児童は、「そうあんくんの日」に計画的・意欲的に取り組むことができていたか	A	
	児童は、地域行事へ積極的に参加し、地域の人々と交流を深めていたか	B	
	教師は、児童の規範となる言動を行い、児童に寄り添った指導をしているか	A	
教育活動	道徳・人権・福祉・特別支援教育 ・個に応じた教育を推進できたか ・体験活動を通した道徳教育を推進したか ・人権感覚の育成、規範意識の高揚を図ることができたか ・福祉体験活動を計画的に十分に行うことができたか ・教育活動全般を通して共生の心を育むことができたか	A	《取組状況》 ・タブレットの活用が進み、児童は操作に慣れてきている。家庭への持ち帰りも定着し、家庭学習でも活用するようになっている。 ・図書館を整備し、利用しやすい配置になった。また、図書の管理もデータ化し貸出・返却・購入・廃棄等、効率よく処理できるようになり、図書館利用も増えている。 ・コロナ禍の中、「たじま荘」訪問や学校行事への招待ができなかったが、クリスマスカードを送ったり、地域の高齢者に「ふれあい郵便」で学校生活の様子を伝えたりするなど、工夫して福祉教育に取り組むことができた。 ・特別支援教育の研修やスクールカウンセラーによる研修、通級指導等、個別の指導や支援に関する専門的な研修を行なった。 ・「きらきら言葉の空」に優しくしてもらったことを紙に書いて掲示するようにしたところ、いろんな優しさに気づく児童が増えて、人間関係づくりに大いに役立った。 ・NIE教育（新聞を活用した教育）を進める中で、新聞社の方を講師として招き、新聞づくりの学習をしたり、新聞を使って言葉探しの学習をしたりした。毎日届く新聞を手に取る児童も増え、社会情勢に関心をもつ児童が増えた。 「一輪車週間」や「鉄棒週間」「ジョギングタイム」など、日頃から運動に親しむよう働きかけを行ったため、目標をもって運動に取り組む児童が増えた。 ・健康に関する指導（歯・姿勢・睡眠・朝食・性教育など）を計画的に行うとともに、通信を通して保護者に積極的に発信し、保護者の理解を得て保健指導ができた。 ・通常の避難訓練に加え、本年度は栄養教諭に協力を得て、防災食の学習を全校生でおこなった。 ・小中一貫で取り組んでいる自主学習について、学期毎に振り返りや発表会、掲示等で振り返りをしたり、指導したりする活動となった。 ・コロナ禍の中、自宅でのオンライン学習に取り組めるようにした。 《改善の方策》 ・里山体験やふるさと学習、草庵先生の学習等、系統立てて指導できるように更に取組を進めていく。 ・今後も地域の教育資源の活用を促進し、地域と子ども達をつなぐ取組を進める。（地域人材バンクの作成） ・家庭読書へつながる取組を考える。
	健康教育（性教育・食育） ・系統的で児童の心身の健康に配慮ある指導ができたか ・教育全般を通して指導を行うことができたか	A	
	防災・環境教育 ・地域の特性に応じ、連携のある取組を推進したか ・計画的・継続的に児童の危機回避能力の向上を図る取組ができたか ・身近な環境に関心をもたせ課題意識を育てることができたか	A	
	情報・図書館教育 ・児童の情報活用能力の育成とSNSの安全な利用について指導ができたか ・教育活動全体でICTの効果的な活用を進めることができたか ・読書の習慣化、家庭読書の定着を進めることができたか	B	
	ふるさと・キャリア教育 ・計画的・系統的に地域素材・人材の活用ができたか ・キャリア教育を推進することができたか	※A	
	小中一貫教育 ・小中一貫教育を見据えた上で、小中連携を推進することができたか	A	
保護者・地域との連携	オープンスクールやＰＴＡ活動などにおいて、保護者や地域の方と連携を深めているか	A	《取組状況》 ・今年もコロナ禍で、学校行事への参加を、地域の方へ参加を積極的に呼びかけないこともあった。しかし、マラソン大会や秋祭りは沿道で多くの方に声援をいただいた。 ・登下校の見守りや声かけ、長期休業中の学習のボランティアなど、コロナ禍でも地域の方には積極的に関わっていただきありがたい。 ・PTA活動はコロナの感染状況をみながら行うことができた。できる限り中止をさけるよう取り組まれ、学校もできる限り実施できるよう協力し活動を推進することができた。 《改善の方策》 ・学校だけでなく、地域でも家庭でも児童が大きな声であいさつできるよう三者が連携した指導を継続する。 ・コミュニティ・スクールを推進するため、地域と学校が一体となって子ども達の指導に関われる仕組みづくりをしていく。
	学校は、地域の人材、施設、歴史、自然などを教育活動に活用しているか	A	

3　総合的な学校関係者評価

・1年生の時は、全く発表できなかった子どもが、6年生の今、積極的に発言している姿を見て成長を感じている。ふるさと講演会の感想を言う場面で、全校生がたくさん手を挙げたのを見て驚いた。
・教師が、寄り添って指導してくれているおかげで、児童は不安感なく学校生活を送れていると思う。
・挨拶に関しては個人差が大きい。また、地域の方にはなかなか挨拶ができない。地域住民とすれ違えば、自然に挨拶ができる習慣がほしい。今後、大人も手本となりながら、挨拶指導を推進していく必要がある。横断歩道で車が止まってくれた時、お礼の挨拶をするなどのマナーも身に付けてほしい。
・来年度は、コロナの影響も減り、地域と連携した行事が増えると思う。しかし、以前していた行事の経験をしたものは少なくなっているため、前と同様にすることは困難である。無理のないようにできることを考えていくことが大切である。

4　評価項目ごとの学校関係者評価

自己評価の適切さ
【学校全体について】 ・月に2回発行の学校だよりが丁寧で分かりやすく、学校の様子がよく分かる。情報を伝える手段については、手紙の全戸配布以外の方法を検討してもよいかもしれない。 ・告知放送で、地域への連絡をしてもらっているのがありがたい。また、児童の声での「草庵先生の教え」の放送はとても元気をもらえる。今後も続けてほしい。 ・いじめに関しては、教師の目が行き届いているので起こりにくいと感じている。ただ、起きてしまったとき、少人数であるがゆえにこじれる可能性もある。今後も、しっかりと指導していただきたい。 ・新型コロナウィルスへの学校の対応は、大変丁寧である。一方で、今後、マスクを外して顔を出せるようになってほしいとも考えている。 ・宿南小学校の先生は、いつも朝早く学校に来ていただいていると感じる。その分、勤務時間を意識して、早く帰ってもらってもよいと考える。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【授業の様子】 ・姿勢がすぐにくずれることがある。先生に言われるからではなく、自分の意志で姿勢をよくしてほしい。慎独の教えをじっくり考えさせる必要がある。 ・３年生と４年生での複式学級となっているが、もう一方の学年の授業で気が散らないか心配もある。 ・英語教育は、小学校から始めることで英語に親しめるようになる。児童には、ネイティブな発音に慣れ親しみながらたくさんの英単語を覚えてほしい。 ・タブレットに関して子どもは本当に理解が早い。基本はできているように思うので、自分で考えて様々なことができるようになってほしい。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【社会性・人間性の育成】 ・子どもが大人と話すとき、敬語が使えることに驚いている。学校の指導のおかげだと思う。 ・「きらきら言葉の空」の取組は大変すばらしい。相手の良いところを認める習慣は、今後の人格形成にも役立つと思う。これからも、続けてほしい。 ・コロナ禍の中、地域行事が停滞したが、今後、徐々にできるようになると思う。ぜひ、子ども達はそれに参加し、社会性や人間性をさらに身に付けていってほしい。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【教育活動】 ・性教育に関して、保護者にとっては、子どもにどう説明してよいか難しい面がある。その中で、事前に答え方のヒントを学校から提示してもらったのは、大変良かった。 ・里山体験や田植え等、様々な体験活動をしてもらっている。多くの体験が、安全教育など他の教育にもつながっていくはずである。また、生きる力となり、大人になった後の可能性を広げることになると思う。 ・新聞社の記者をゲストティーチャーに招き専門的な視点から指導をしてもらえたのはよかった。 ・読書活動が停滞している理由として、大人が本を読まないことも考えられる。保護者も子どもの読書活動の応援ができるように、何か取組ができたらよいと思う。 ○達成状況の自己評価は適切である。
【保護者・地域との連携について】 ・今年度、コロナ禍の中、先生方には、工夫しながら地域との連携を図ってもらえた。 ・地域の方が参加してもよい学校行事に関しては、確実に情報が入るようにお願いしたい。 ・子ども達の指導ができる地域人材（クラブ活動・体験活動等）が少しでも増えてくれたらありがたい。 ○達成状況の自己評価は適切である。